



てき丸君News 第9号

発行：公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目1番17号

TEL 03-3224-0811

FAX 03-3224-0820

http://www.zensanpairen.or.jp

第13回産業廃棄物と環境を考える全国大会 岩手県盛岡市で開催

第13回産業廃棄物と環境を考える全国大会（主催・公益社団法人全国産業廃棄物連合会、公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター、公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団）を11月7日に岩手県盛岡市のホテルメトロポリタンニューウイングで開催しました。

当日は、全国から約640人の方々にご来場いただき、環境大臣表彰、基調講演及びパネル討論会を行ったほか、全国大会の閉会後には交流会を開催しました。また、関東地域協議会女性部会が中心となり今回で3回目となる「e-Lady21のつどい」も、今回の全国大会にあわせて開催されました（環境大臣表彰、e-Lady21のつどいのもようは次頁掲載）。

全国大会は、まず主催団体を代表して当連合会の石井会長の開会挨拶に始まり、来賓としてご出席いただいた環境省産業廃棄物課の角倉課長、岩手県環境生活部の津軽石副部長（達増岩手県知事代理）より祝辞を頂戴しました。その後、循環型社会形成推進功労者に対する環境大臣表彰（産業廃棄物関係事業功労）が行われ式典を終了しました。



右から齋藤氏、角倉氏

式典の終了後は、「廃棄物からみた社会システム～災害廃棄物を中心に」をテーマとして京都大学環境科学センターの酒井センター長にご講演いただきました。



酒井京都大学環境科学センター長による基調講演には、多数の来場者が耳を傾けました。



右から津軽石氏、小池氏、吉田氏

続いて「環境再生そして循環型社会への挑戦」をテーマにパネル討論会を行い、岩手大学の齋藤名誉教授（コーディネーター）、環境省産業廃棄物課の角倉課長、岩手県環境生活部の津軽石副部長、太平洋セメント（株）の小池工場長、（一社）岩手県産業廃棄物協会の吉田専務理事（門協会長代理）の各氏にご登壇いただきました。全国大会終了後の交流会には400人を超える方が参加され、盛岡市の藤尾副市长をはじめ多数のご来賓にもお越しいただきました。

ご来賓、ご出演者及びご来場者の皆様、後援いただきました環境省、岩手県、盛岡市をはじめ協賛・協力いただきました各団体等の皆様に対し、全国大会が成功裏に閉幕できましたことを心より感謝申し上げます。（総務部・古川）

●来年度の全国大会は佐賀県で開催●
第14回産業廃棄物と環境を考える全国大会は、来年11月6日（金）に佐賀県佐賀市で開催することが決定しました。
今回の全国大会終了後の交流会では、三谷九州地域協議会会長（一般社団法人鹿児島県産業廃棄物協会会長）が次回開催地域を代表して挨拶しました。

「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」14名の方々が受賞



第13回産業廃棄物と環境を考える全国大会におきまして、産業廃棄物処理事業を通じて長年にわたり循環型社会の形成に大きく貢献されてきた14名の方々が、「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰（産業廃棄物関係事業功労）」を受賞されました。表彰式典では角倉環境省産業廃棄物課長より表彰状が授与された後、受賞者を代表して福代氏が謝辞を述べられました。受賞者の皆様、本当におめでとうございます。（総務部・古川）

〈受賞者の皆様〉

守田 文夫 様（青森県）
 関野 義治 様（栃木県）
 澤口 隆好 様（群馬県）
 江口 利明 様（埼玉県）
 細田 秋夫 様（千葉県）
 板谷 謙司 様（千葉県）
 喜多 良明 様（富山県）
 蔵岡 修 様（石川県）
 石田 信正 様（岐阜県）
 平沼 辰雄 様（愛知県）
 赤澤 健一 様（大阪府）
 鎌田 幸男 様（福岡県）
 谷川 精一郎様（熊本県）
 福代 明正 様（島根県）

*掲載順不同、府県名はご所属地

全国大会にあわせ「e-Lady21のつどい」

去る11月7日、盛岡市にて開催された全国大会と同じホテル、メトロポリタン盛岡ニューウイングで、午前11時より第3回「e-Lady21のつどい」を開催しました。

会の冒頭には、石井会長と森谷専務理事にもご参加いただくとともに、千葉県、群馬県、茨城県、東京都と地元岩手県の産業廃棄物業界で働く女性たち36名が一堂に集いました。

講演テーマを「産業廃棄物業界で働く女性たちに聴く！」と題して、各地域で活躍している4名の女性経営者の方々に、働くことになった経緯やご苦労話等を講演いただき、公開座談会形式で意見交換が行なわれました。座談会後の昼食時には、テーブル毎に楽しく有意義な情報交換会。最後に参加者全員で笑顔の記念撮影が行われ、短い時間でしたが、同じ業界で働く女性同士が集い、講演・情報交換を通じて交流できた大変貴重な機会となりました。

（報告：関東地域協議会女性部会・二木さん）



●教育研修委員会●

平成26年度第1回教育研修委員会を11月10日に開催しました。

委員会では、①許可講習会の受付業務（Web申込）について②平成27年度許可講習会についての2つの検討事項を議論したほか、許可講習会の契約変更や平成28年度許可講習会テキストの全面改訂などに関する報告を行いました。

検討事項のうち、許可講習会の受付業務（Web申込）については、円滑な実施にむけたシステムの改善要望について、継続して振興センターと協議していくこととなりました。

（事業部・横山）

委員会・部会便り

●最終処分部会早期安定化分科会●

平成26年度第2回最終処分部会早期安定化分科会を11月17日に開催しました。

今回の分科会は通算6回目の開催で、全国の最終処分業者27名が参加しました。

分科会では、これまでに参加者から提出された各社で整備している資料や分科会で実施したアンケート調査結果を基に、最終処分場を適正に維持管理し早期の安定化を実現するために必要な、処分業者と排出事業者の役割分担とそれぞれが果たすべき責任の明確化に向けた意見交換が行われました。

次回の分科会では、今回の意見交換の内容を引き続き検討していくこととなりました。（調査部・香川）

協会便り

●第1回北海道循環型社会推進大会を開催—北海道産業廃棄物協会—●

第1回北海道循環型社会推進大会を、11月11日に北海道札幌市のホテルポールスター札幌で開催しました。

これは、道内における3Rや産業廃棄物の適正処理を進め、循環型社会の形成を促進するため、各現場が抱える問題や取組事例の発表などを通じてそれらの知識・課題を共有することにより、関係者間の連携の強化、適正処理の一層の推進に質することを目的に、北海道・札幌市・地方環境事務所・(一社)廃棄物資源循環学会の後援を受け、(公社)北海道産業廃棄物協会が主催したものです。

当日は、北海道協会時田会長の挨拶で始まり、(公社)全国産業廃棄物連合会の石井会長から来賓の挨拶がありました。



最初の基調講演は北海道大学大学院工学研究院 松藤教授から『廃棄物処理・リサイクルの良さをどう測るか』をテーマにマテリアルフローに基づく処理の見方、現在の処理と制度の問題点について説明がありました。続く事例発表では、行政から環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課、北海道環境生活部環境局循環型社会推進課、排出事業者としてトヨタ自動車北海道(株)、(株)アレフ、処理業者として北海道協会の医療廃棄物部会、収集運搬部会、建設廃棄物部会、中間処理部会、最終処分部会の9名の方から事例を基に様々な立場からの課題等を話していただきました。

この事例発表をもとに、続くパネル討論会では松藤教授がコーディネーターとなり、9名のパネラーと問題点について討論が行われました。

13時半から17時という3時間半の長丁場、そして初めて開催された大会でしたが、行政や排出業者を含む183名もの参加者があり、大盛況の中で無事に終了しました。また、大会終了後に開催された意見交換会にも、石井会長や発表者の方々ほか、多くの参加者があり、活発に情報交換が行われていました。

(報告：公益社団法人北海道産業廃棄物協会事務局・松永さん)

●災害廃棄物処理研修会を開催—和歌山県産業廃棄物協会—●

異常気象による洪水や土砂災害に加えて、将来的に予想される南海トラフ巨大地震等で発生する災害廃棄物を迅速かつ適正に処理するため災害廃棄物処理研修会を実施しました。

研修会では、武田会長から開会の挨拶と災害廃棄物処理の基本及び当協会の社会的使命等についての説明の後、和歌山県循環型社会推進課の鳴神課長から県の災害廃棄物対策の取組状況についてご講演をいただき、続いて平成23年に発生した紀伊半島大水害時に当協会が実施した災害廃棄物の処理支援の状況等について、当時現場で処理にあたった3名の協会会員からスライドを使った体験発表をしていただきました。

日 時：平成26年11月18日(火) 午後1時30分～午後4時00分

場 所：和歌山県勤労福祉会館 プラザホープ 4階ホール

参加者数：51名

研修内容：

(1) 和歌山県の災害廃棄物対策の取組状況について

(和歌山県災害廃棄物処理計画を含む)

講師：和歌山県循環型社会推進課

課長 鳴神 賢 氏

(2) 体験発表(平成23年紀伊半島大水害について)

① (株)目良建設 目良 敏 氏(本宮町・那智勝浦町)

② (有)日置川清掃 浅井 康紀 氏(那智勝浦町)

③ (有)ワコー産業 酒本 吉伸 氏(日高川町)



(報告：一般社団法人和歌山県産業廃棄物協会事務局・井本さん)

官公庁関係ニュース

●水俣条約を踏まえた今後の水銀廃棄物対策などでパブリックコメント●

水銀に関する水俣条約に係る以下の3つの報告書案等について、パブリックコメントを実施中です。ご意見のある方は、個別に環境省等にご提出ください。

- ・「水銀に関する水俣条約を踏まえた今後の水銀対策について（報告書案）」
 - ・「水俣条約を踏まえた今後の水銀廃棄物対策について（案）」
 - ・「水俣条約を踏まえた今後の水銀大気排出対策について（答申案）」 （調査部・日浦）
- <http://www.env.go.jp/info/iken.html>

水銀廃棄物セミナー(来年1月東京・2月大阪)参加者募集 「水銀廃棄物の規制の行方と産業廃棄物処理業者の今後の対応」

全国産業廃棄物連合会では、水俣条約の発効に伴う水銀にかかわる規制の方向性について情報提供するとともに、水銀を含有する廃棄物等を適正に取り扱うために関係者の果たすべき役割について理解を深めることを目的に下記の要領でセミナーを開催いたします。

■開催日と会場：

- 東京会場 1月29日（木）ベルサール八重洲「Room4+5」
〒103-0028東京都中央区八重洲1-3-7八重洲ファーストフィナンシャルビル3F
- 大阪会場 2月6日（金）梅田スカイビル「スペース36L」
〒531-6023大阪府大阪市北区大淀中1-1 梅田スカイビルタワーウェスト36F

■定員：100人

■参加費：5千円(税込)

■参加申し込み・問い合わせ先：全国産業廃棄物連合会事業部（電話：03-3224-0811）

詳細は右記アドレスをご覧ください。 <http://www.zensanpairen.or.jp/disposal/O4/index.html>

■プログラム：午後1時30分から午後4時35分（休憩10分）、開場は午後1時15分から

1. 開会挨拶（10分）

2. 講演（120分）

（1）水銀に関する水俣条約を踏まえた今後の水銀廃棄物対策について(40分)

講師 環境省産業廃棄物課

※水銀に関する水俣条約の採択を踏まえ、金属水銀を廃棄物として扱う場合に適正に処理するための方法や水銀添加廃製品の適正な管理方法等のあり方について、廃棄物焼却施設からの水銀大気排出に関する規制の方向性を含めて中央環境審議会における審議の内容をご講演予定。

（2）水銀廃棄物の処理について～その課題とポイント（仮題）（40分）

講師 京都大学大学院工学研究科教授 高岡 昌輝 氏

※水銀の環境中での挙動、水銀の物性や他の化学物質との混合による危険性などの基礎知識と水銀の処理方法・課題をご講演予定。

※国内措置案について科学者のお立場からみた課題やポイントをご解説予定。

（3）水俣条約を踏まえた水銀リサイクルの今後について（20分）

講師 野村興産株式会社代表取締役社長 藤原 悌 氏

※水銀回収・リサイクルを事業としている野村興産株式会社に、今後の法規制を見据えた事業の方向性についてご講演予定。

（4）水銀廃棄物の埋立処分について（20分）

講師 全国産業廃棄物連合会最終処分部会運営委員 檜垣 光次 氏

※産業廃棄物最終処分業者の立場から、水銀廃棄物の埋立処理の課題についてご講演予定。

（休憩 10分）

3. 講演者とフロアとの意見交換（30分）：

4. 総括（10分）

INDUSTのお知らせ

●INDUST12月号特集「産廃ビジネスの資金調達」●

廃棄物ビジネスの高度化が進み、さまざまな資金調達の手法が確立されてきました。民・官を問わず各種の機関が補助、助成、融資、保障制度を整備しており、産業廃棄物処理事業の経営をバックアップしています。こうした制度を活用し、事業の充実を図ることで、産廃業者は更なる適正処理の推進、社会貢献を進めていかなければなりません。そこで今号は、産廃ビジネスの資金調達を特集します。
(事業部・東方)

12月の主な行事予定

- 5日 第96回青年部協議会幹事会（山形県）
- 9日 第2回マニフェスト推進委員会
- 11日 能力アップセミナー営業コース（大阪）
～12日 最終処分場技術研修会・施設見学会（福岡）
- 15日 第5回産業廃棄物処理業の業法を含めた振興策に関するタスクフォース会合
- 18日 第1回建設汚泥分科会
- 22日 平成26年度第3回法制度対策委員会

